

# 令和2年度 学校保健委員会 会報



学校保健委員会とは、子どもたちの心身の健康とよりよい生活習慣の定着を目指して学校・地域・家庭が意見を交換し、保健安全上の問題について話し合い、実践していく組織です。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で集会という形を取ることができませんでしたので、紙面報告とさせていただきます。学校・家庭が協力して問題解決していくため、概要をまとめましたのでぜひ保護者の方々に知っていただき、子どもたちの健全な育成のために役立てていけたらと思います

## ○定期健康診断の結果より

- \*体位の状況・・・身長体重の平均値で見ると、1・2年生男子では県・全国ともに上回り、3年生男子及び全学年女子では小柄な傾向にある。また、男子は1年生では肥満傾向の出現率が多く、2・3年生では逆に痩身傾向の生徒が多い。女子ではどの学年でも肥満傾向の出現率が高く、特に3年生で集団的ダイエット思考が見られ、食育担当による栄養士とも連携した栄養指導を行ってきた。
- \*歯の状態・・・未処置歯のある生徒が全体の51.2%(昨年は41.6%、全国は14.2%)と多く、学年が上がるにつれ増加傾向にある。一人あたりのむし歯本数の平均も4.19(昨年は1.8、全国は0.70)と課題である。また、歯垢や歯肉の状態では、受診が必要な生徒の割合は全国・県よりも低い。受診率は13.2%と昨年よりわずかに上がったものの、必要なのに受診できていない生徒が多く、保護者の協力が必要である。
- \*視力・・・裸眼視力による低視力者(1.0未満)は学年が上がるが増え、全体の56.8%と、全国・県と比べやや高い。また、眼鏡やコンタクトを使用している者のうち89%が矯正視力でも1.0未満である。成長期は視力の変化する時期であり、眼が一番酷使される時期でもあります。度数の合っていない眼鏡等では、学習の能率低下にも繋がります)生活リズムチェックの結果から、テレビ・スマホ・ゲーム等の利用が1日平均2.45時間で、中には睡眠時間も惜しんで1日中ゲーム生活の生徒も見られ、視力への影響も心配される。
- \*耳鼻科・内科検診・・・耳鼻咽喉頭疾患では、アレルギー性鼻炎が最も多く20.9%、次に慢性鼻炎が5.1%、次いで扁桃肥大の3.6%となり、今年度は耳垢栓塞が2.8%(昨年15.1%)と少なかった。中等度以上の肥満についても生活習慣病予備軍にもなり得るため、成長曲線を参考にして受診を勧めている。

## ○保健室の様子から(2月末現在)

- \*保健室来室状況・・・延べ3056人で1日平均18.29人の来室がある。内訳は、ケガ1002人、病気1770人、その他284人で、学年別では2年生が40.3%とやや多い。睡眠不足や心理面からの体調不良も多い。
- \*災害給付対象のケガ・・・学校管理下のケガで病院受診を要した件数は56件で、その48%が部活動中のケガで、疲労蓄積によるものもあった。10月にはスポレクや部活動の大会等でケガが増えた。
- \*感染症による出席停止・・・新型コロナウイルスの陽性者が3名、濃厚接触者が8名確認されており、風邪症状等の場合も(現在は家族の風邪症状等も)可能性が疑われるため出席停止としている。また、感染予防対策の徹底により、例年猛威を振るうインフルエンザの発生はなかった。

## ○学校環境衛生検査の結果より

今年度はプールの使用が無かったため、飲料水・空気(室内化学物質濃度)・照度・騒音・ダニアレルゲンに関して検査し、飲料水において再検査が必要となったが、全て検査基準に適合しており、使用上問題は無い。感染症対策として扇風機を回しているが、授業中に騒音が気になるようなら弱める等の対応が良い。

## ○第1回残量調査結果より

今年度は7月5日間調査した結果です。昨年度に引き続き、牛乳の残量が多く、1日平均9.42%(豊見城市内中学校平均6.44%)である。成長期には必要不可欠な、早骨の成長に関わるカルシウムの加工乳になると更に残量が増えるが、栄養成分は変わらず積極的にとってほしい。牛乳以外の残量は、小学校と比べて中学校の方が少なくなっているが、給食のご飯はビタミンが強化されていたり、おかずの摂取状況で鉄分や亜鉛などの微量栄養素の充足率が大きく変わります。配食された分はしっかりバランス良く食べるようにしましょう。